

(11) WG 19：在来工法(NATM)

部会長：E. Garin（スイス）

副部会長：V. Gall（米国）

担当理事：J. Mignon（ベルギー）

本WGでは、在来工法（NATM）を対象とした技術向上と国際的な情報共有を目的として継続的な検討・活動を行っている。対面参加 32 名、オンライン参加 5 名の計 37 名が参加した。日本からは辻川（戸田建設(株)）、満尾（東急建設(株)）、淡路（清水建設(株)）、外山、塩梅、小関（鉄道・運輸機構）が対面で出席した。

今年度は部会長、副部会長の選挙が実施され E. Garin 部会長、V. Gall 副部会長が再選された。また、以下の 3 テーマについて議論がなされた。

1. Safety-in-Design に関するガイドライン

本ガイドラインは、トンネル工事の安全を設計段階から確保する考え方をまとめガイドライン案を基に意見交換が行われ、特に設計者と施工者の責任区分においてそれぞれの立場から意見を出し、各国の異なる状況も踏まえた活発な議論となった。また、各国制度の差異や維持管理まで含めた適用範囲も議論がおよび、今後も継続して意見やコメントを募り、修正を図る。

2. 防水システムの適用に関するガイドライン

在来工法におけるトンネル防水について、設計、施工、修復方法等を記載したガイドラインの策定を目指し、ガイドライン案の議論が行われた。防水シートの施工方法、工法の比較、コストが話題にあがり、参加者からのコメントを踏まえて議論が行われた。また、吹付け防水工は、吹付けコンクリートを最終ライニングにする時に課題があるとのことであった。2026 年 7 月末まで意見等を募り、2026 年内にドラフトを完成させる方針となった。

3. 最終ライニングへの吹付コンクリートの活用（いわゆるシングルシェル）について

新たな議題として、WG12 とともにガイドラインの作成を目指す「最終ライニングへの吹付コンクリートの活用」について意見交換が行われた。吹付コンクリートの活用にあたっては課題等もあり、今後、各国の事例収集をすることとなった。従来工法をめぐる最新の課題について引き続き多国籍メンバーで意見交換を行い、国際的なガイドライン策定およびその円滑な導入と運用を図る予定である。

（文責：辻川泰人・戸田建設(株)、満尾・東急建設(株)、
淡路動太・清水建設(株)、外山真・鉄道・運輸機構）

WG 19 の活動状況はこちらから

[Working Group 19: Conventional Tunnelling](#)